

京土会「学生・若手会員研修助成基金」報告書

1.申請者情報

申請年度・回：令和 6 年度第 1 回

氏名：原田 彩花

所属・学年：工学部地球工学科土木工学コース・B3

渡航先：インドネシア（ジャカルタ）

2.活動報告

申請者は9月2日から9月13日まで、株式会社大林組の海外プロジェクトのインターンシップに参加し、最終日に学習成果のプレゼンテーションを行った。インドネシアの首都ジャカルタでは下水道の普及率が12%程度である。研修先付近にも、下水が処理されずに流れ込んでいる池があった。そのため下水処理場を施工し、適切に処理された水を池に放流することを目的としている。また、排水のろ過（分離）に特殊な膜を用いることで、省スペースと高い処理性能を実現する膜分離活性汚泥法(MBR)が採用されている。また、日本国内で実績のあるケーソンと呼ばれる函（はこ）を自重で沈下させて設置していくニューマチック無人化ケーソン工法をインドネシアで初めて採用したことも注目すべき点である。下水浄化システム、ニューマチックケーソン工法の原理、ゼネコンでの全業務内容に関する講義を聞き、現場や生コンクリート工場や鉄筋工場を視察した。最終日には学習成果のプレゼンテーションを行った。業務時間外でも、大林組の社員の方々がこの事業や、昔に携わった事業について熱く語るのを聞き、ゼネコンで自分の手で大きなものを作り上げていく、その完成物が残るという達成感はとても大きなものなのだろうと感じた。私も、このように自分の仕事について熱く語れる技術者になりたいと感じた。海外勤務では、若い社員が管理職を経験でき、成長できるというのも魅力的だった。

3.おわりに

このたび申請者の海外研修にご助成いただいた京都大学土木会に深い感謝の意を表します。

(写真右：ニューマチックケーソン工法の作業室、写真左：ポンプ場の外観)

